日本語ジェンダー学会基調講演

２００２年３月２３日

言語とジェンダー研究

中村桃子氏

今日のポイント

1　私たちは互いにことばを使って関わり合う中で多様なジェンダー・アイデンティティーを能動的に作り上げている。

2　その時、性についてこれまで歴史的に「語られてきたこと」から作られたジェンダー・イデオロギーから制限を受けたり、それを利用したりしている。

3　私たちが多様なジェンダーアイデンティティーを作り上げることは、今あるジェンダー・イデオロギーを再生産すると同時に、それを変革する場合もある。

Ⅰ．「ジェンダー」概念の変遷

1　セックス（生物学的性別）とジェンダー（社会・文化的性役割）

マネー他(1979)『性の署名』人文書院

2　本質主義のジェンダー

上野千鶴子(1995)「差異の政治学」『現代社会学１１　ジェンダーの社会学』岩波書店

3　構築主義のジェンダー：ジェンダー・アイデンティティー

Burr, Vivian (1995) *An Introduction to Social Constructionism*. Routledge. 邦訳有り

ジュディス・バトラー(1999)『ジェンダー・トラブル』青土社

上野千鶴子編(2001)『構築主義とは何か』勁草書房

→二項対立ジェンダーと「女」という集団の否定

4　構築主義の問題点→ジェンダー・イデオロギーの導入

Ⅱ．様々な「ディスコース」概念：ディスコース実践とディスコース秩序

Ⅲ．「言語とジェンダー研究」のダイナミックモデル

Copyright © 2002 The Society for Gender Studies in Japanese All rights reserved.

ジェンダー関係　(社会構造)
↓　↑
ジェンダー・イデオロギー　(ディスコース秩序)
↓　↑
①制限・資源　②再生産・変革
↓　↑
ジェンダー・アイデンティティー　(ディスコース実践)

詳しくは、中村桃子(1995)『ことばとフェミニズム』勁草書房

7　「女ことば」とは、ジェンダー・イデオロギーの言語版である。

本田和子(1990)『女学生の系譜』青土社

遠藤織枝(1997)『女のことばの文化史』学陽書房

Copyright © 2002 The Society for Gender Studies in Japanese All rights reserved.